

# 添付文書警告欄に頻回または定期的に検査を行うように記載がある薬剤

以下の目安を参考に、患者の状態や服用期間(投与開始初期・維持期)受診間隔などを考慮して、検査実施が検討されます。

該当薬剤を使用されている患者さんでは、以下の内容をご留意いただき、服薬指導を行うようにしてください。

また、添付文書の警告欄以外にも定期的または頻回に検査が必要性的について記載がある薬剤がありますので、薬剤や患者さんの状態等、必要に応じて検査内容の確認を行ってください。

検査間隔(目安):

黒字は添付文書の記載、青字は適正使用ガイド等のメーカー文書に記載があり、メーカーにも確認、赤字は各診療科の医師に目安を提案いただき、メーカーにも確認

主な商品名	一般名	検査内容	検査間隔(目安)	リスクの内容	
アクブラ注	ネダブラチン	臨床検査(血液検査、肝機能、腎機能検査等)	頻回	強い骨髄抑制や腎障害	
アセリオ注	アセトアミノフェン	[アセトアミノフェンの1日総量1500mgを 超す高用量で長期投与する場合] 肝機能検査等	3ヶ月に1回	重篤な肝障害	
アバスタチン注	ベバシズマブ	血圧	2-4週に1回	高血圧性脳症、高血圧性クレーゼ	
アブラキサン注	パクリタキセル	臨床検査(血液検査、肝機能、腎機能検査等)	頻回	骨髄抑制(特に好中球減少)等	
アンカロン注	アミオダロン	CCU、ICU等で心電図及び血圧の連続監視下で使用(血圧は可能な限り動脈内圧の連続監視が望ましい)		重篤な心障害	
アフィニートール錠	エベロリムス	胸部CT検査	胸部CT検査・AST/ALT/ALP/肝炎ウイルスマーカー等	治療開始前に1回 治療開始2年間は8週に1回 2年目以降は12週に1回	間質性肺疾患
		[肝炎ウイルスの患者] 肝機能検査(HBV-DNA定量を含む)		投与開始前に1回 治療開始後は1ヶ月に1回	肝炎ウイルス再活性化に伴う肝不全
イダマイシン注	イダルビシン	血液検査	頻回	強い骨髄抑制(致命的な感染症及び出血等)	
ヴォトリエント錠	パゾパニブ	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	治療開始初期は2週間に1回 安定期は1ヶ月に1回	重篤な肝機能障害
エクジェイド錠	デフェラシロクス	血清クレアチニン	ビリルビン/ALP・AST/ALT/ALP・Cre等	治療開始前に2回 4週に1回 (治療開始または投与量変更後1ヶ月間は週に1回)	重篤な肝障害、腎障害、胃腸出血
		血清トランスアミナーゼ、 ビリルビン、ALP		治療開始前に1回 治療開始後1ヶ月間は2週に1回 2ヶ月目以降は4週に1回	
オダイン錠	フルタミド	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	1ヶ月に1回以上	劇症肝炎等重篤な肝障害
カロナル錠 (コカールDS)	アセトアミノフェン	[アセトアミノフェンの1日総量1500mgを 超す高用量で長期投与する場合] 肝機能検査等	AST/ALT/ALP等	3ヶ月に1回	重篤な肝障害
クリアクター注	モンテプラゼ	血液検査(血液凝固能)と臨床症状観察	APTT/ACT等	頻回	脳出血等の重篤な出血
クロザリル錠	クロザピン	CPMSに準じて検査			糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡等
コンビビル錠	ジドブジン /ラミブジン	血液学的検査	WBC/RBC/Plts等	頻回	骨髄抑制
ザーコリ錠	クリゾチニブ	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	治療開始後3週間は3週に2回(投与初期は頻回) 4週目以降は3週に1回	肝不全
サムスカ錠	トルバプタン	血清Na濃度[心不全及び肝硬変における体液貯留]	血清Na濃度	投与開始日または再開日は頻回(以降も注意)	橋中心髄鞘崩壊症 脱水症状や高Na血症に伴う意識障害
		血清Na濃度[常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)]	血清Na濃度	少なくとも1ヶ月に1回	脱水症状や高Na血症
		肝機能検査[常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)]	AST/ALT/ALP等	治療開始前・増量時に1回 少なくとも1ヶ月に1回	重篤な肝障害
サレドCap	サリドマイド	妊娠検査	妊娠検査(女性)	治療開始予定の4-2週間前と直前 治療開始後は間隔が4週間を超えないように検査	催奇形性
ジェムザール注	ゲムシタピン 塩酸塩	胸部X線検査	胸部X線検査・WBC/RBC/Plts・ AST/ALT/ALP・Cre等	治療開始前に1回	間質性肺炎等
		臨床検査(血液学的・肝機能・腎機能検査等)		頻回	骨髄抑制等
スチバーガ錠	レゴラフェニブ	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	治療開始前に1回 治療開始後2ヶ月間は週に1回 3ヶ月目以降は2週に1回	劇症肝炎・肝不全などの重篤な肝障害
ゼローダ錠	カペシタビン	[ワーファリン(ワルファリンカリウム)併用時] <sup>※1</sup> 血液凝固検査	PT-INR等(ワルファリン併用時)	併用開始初期は週に1回 安定期は3-6週に1回	出血

主な商品名	一般名	検査内容		検査間隔(目安)	リスクの内容
タイケルブ錠	ラパチニブ	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	治療開始前に1回 3-6週に1回	重篤な肝機能障害
タルセバ錠 [腫瘍]	エルロチニブ	胸部X線検査 胸部CT検査	胸部X線・CT検査	[1クール目]:治療開始前に1回 4週に1回	間質性肺疾患
ティーエスワン OD錠	テガフル ・ギメラシル ・オテラシル	肝機能検査 [ワーファリン(ワルファリンカリウム)併用時] <sup>※1,2</sup> 血液凝固検査 臨床検査	WBC/RBC/Plts・AST/ALT/ALP等・PT- INR等(ワルファリン併用時)	各クール開始前 併用開始初期は週に1回 安定期は3-6週に1回 頻回	劇症肝炎等の重篤な肝障害 出血 骨髄抑制(腎機能低下時には特に注意)
デノシン注	ガンシクロビル	血液学的検査	WBC/RBC/Plts等	頻回	重篤な白血球減少、再生不良性貧血、 好中球減少、貧血、血小板減少、 汎血球減少及び骨髄抑制
トリーセル注	テムシロリムス	胸部CT検査 [肝炎ウイルスの患者] 肝機能検査	胸部CT検査・AST/ALT/ALP等	2ヶ月に1回 治療開始前と終了後に各1回 治療開始後は2週-1ヶ月に1回	間質性肺疾患 肝炎ウイルス再活性化に伴う肝不全
ドキシル注	ドキシソルピシン	血液検査	WBC/RBC/Plts等	頻回	重度の骨髄抑制
トボテン注	イリノテカン	臨床検査(血液検査、肝機能、腎機能検査等)	WBC/RBC/Plts・AST/ALT/ALP・Cre等	頻回	骨髄機能抑制、高度な下痢等
トラクリア錠	ボセンタン	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	治療開始前に1回 1ヶ月に1回以上 (開始後3ヶ月間は2週に1回が望ましい)	肝機能障害
トラムセット錠	アセトアミノフェン	[アセトアミノフェンの1日総量1500mgを 超す高用量で長期投与する場合] 肝機能検査等	AST/ALT/ALP等	3ヶ月に1回	重篤な肝障害
トリセノックス注	三酸化ヒ素	12誘導心電図、血清電解質(K、Ca、Mg)、 クレアチニンの検査(必要に応じて電解質補正) 12誘導心電図(心電図モニター等による監視も考慮)	心電図検査・血清K/Ca/Mg値・Cre等	投与開始前 投与開始後は週2回以上	QT延長、完全房室ブロック等の不整脈
トリアキシン注	ベンダムスチン	血液検査	WBC/RBC/Plts等	頻回	骨髄抑制により感染症等
ハーセプチン注	トラスツズマブ	[特定の患者 <sup>※3</sup> ]心機能検査(心エコー等)	心エコー/心電図・胸部X線検査等	頻回	心不全等の重篤な心障害
パクリタキセル注	パクリタキセル	臨床検査(血液検査、肝機能、腎機能検査等)	WBC/RBC/Plts・AST/ALT/ALP・Cre等	頻回	骨髄抑制等の重篤な副作用
パナルジン錠	テクロピジン	血球算定(白血球分画を含む)、 肝機能検査	AST/ALT/ALP・WBC/RBC/Plts等	治療開始後2ヶ月間は2週に1回 3ヶ月目以降は1年に1回	血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、 無顆粒球症、重篤な肝障害等
ハラヴェン注	エリブリン	血液検査	WBC/RBC/Plts等	頻回	骨髄抑制
バラクルード錠	エンテカビル	臨床症状と臨床検査値	AST/ALT/ALP等	投与終了後少なくとも数か月間	肝炎の急性増悪
バリキサ錠	バルガンシクロビル	血液学的検査	WBC/RBC/Plts等	頻回	重篤な白血球減少、好中球減少、血小板減少、 汎血球減少、貧血、再生不良性貧血及び骨髄 抑制
ピラミューン錠	ネピラピン	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	治療開始後6ヶ月間は1ヶ月に1回以上	肝不全などの重篤で致死的な肝機能障害
フィズリン錠	モザバプタン	血清Na濃度	血清Na濃度	投与開始日は頻回に(以降も注意深く観察)	橋中心髄鞘崩壊症
ブイフェンド注 ブイフェンド錠	ポリコナゾール	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	1ヶ月に1-2回	肝障害
フトラフルCap	テガフル	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	治療開始後2ヶ月間は1ヶ月に1回以上	劇症肝炎等の重篤な肝障害
フルダラ錠 フルダラ注	フルダラピン	臨床検査(血液検査、肝機能、腎機能検査等)	WBC/RBC/Plts・AST/ALT/ALP・Cre等	頻回 頻回	骨髄抑制、遅延性のリンパ球減少
ベタナミン錠	ペモリン	血液検査等	AST/ALT/ALP等	2週に1回 <sup>※4</sup>	重篤な肝障害
ヘプセラ錠	アデホビル	臨床症状と臨床検査値 (HBV-DNA、ALT、必要に応じて総ビリルビン)	HBV-DNA/AST/ALT/総ビリルビン等	投与終了後少なくとも4か月間は原則として2週に1回 (その後も観察を続けること)	肝機能の悪化もしくは肝炎の重症化
ホスカビル注	ホスカルネット ナトリウム	血清カルシウム、マグネシウム、カリウム 血清クレアチニン値等の腎機能検査	血清Ca・Mg・K値・Cre等	4週に1回(必要に応じて週2-3回) 頻回	電解質異常に伴う発作を誘発 腎障害
メタストロン注	ストロンチウム	血液検査	WBC/RBC/Plts等	4週に1回(4ヶ月) <sup>※5</sup>	骨髄抑制
メトグルコ錠	メトホルミン	[腎または肝機能障害のある患者・高齢者] 腎・肝機能検査	Cre・AST/ALT/ALP等	2-3ヶ月に1回	重篤な乳酸アシドーシス
メルカゾール錠	チアマゾール	白血球分画を含めた血液検査	WBC等	治療開始後2ヶ月間は2週に1回 3ヶ月目以降は1-3ヶ月に1回	重篤な無顆粒球症
ユーエフティ カプセル	テガフル ・ウラシル	肝機能検査 [ユーゼル併用時] 肝機能・血液検査等 [ワーファリン(ワルファリンカリウム)併用時] <sup>※1,2</sup> 血液凝固検査	AST/ALT/ALP等・PT-INR等(ワルファリン併 用時)	治療開始後2ヶ月間は1ヶ月に1回以上 3ヶ月目以降は4-8週に1回 1・2クール目は投与前に1回 1クールに1回1回以上 併用開始初期は週に1回 安定期は3-6週に1回	劇症肝炎等の重篤な肝障害 劇症肝炎等の重篤な肝障害、 重篤な骨髄抑制 出血

主な商品名	一般名	検査内容		検査間隔(目安)	リスクの内容
ユーゼル錠	ホリナート カルシウム	肝機能・血液検査等	AST/ALT/ALP・WBC/RBC/Plts等	1・2クール目は投与前に1回 1クールに1回1回以上	劇症肝炎等の重篤な肝障害、 重篤な骨髄抑制
ユリノーム錠	ベンズブロマロン	肝機能検査	AST/ALT/ALP等	治療開始後6ヶ月間は3ヶ月に1回 7ヶ月目以降は6ヶ月に1回	劇症肝炎等の重篤な肝障害
ラミシール錠	テルビナフィン	肝機能検査・血液検査 (血球数算定、白血球分画等)	AST/ALT/ALP・WBC/RBC/Plts等	治療開始前に1回 開始後2ヶ月は月1回、以降は4、6ヶ月後に各1回 [肝障害あり]1、2、3、4、6ヶ月後に各1回 (原則投与期間は6ヶ月)	重篤な肝障害 (肝不全、肝炎、胆汁うっ滞、黄疸等) 及び汎血球減少、無顆粒球症、血小板減少
ランマーク注	デノスマブ	血清カルシウム値	血清カルシウム値	頻回に	重篤な低カルシウム血症
レトロビルCap	ジドブジン	血液学的検査	WBC/RBC/Plts等	頻回に	骨髄抑制
レブラミドCap	レナリドミド	妊娠検査	妊娠検査(女性)	治療開始予定の4週間前と3日前～直前の計2回 治療開始後は間隔が4週間を超えないように検査	催奇形性
レボホリナート注	レボホリナート カルシウム	肝・腎機能・血液検査等	AST/ALT/ALP・Cre・WBC/RBC/Plts等	2-4週に1回 (投与初期は頻繁に)	重篤な骨髄抑制、激しい下痢等
ロイスタチン注	グラドリピン	臨床検査(血液検査、肝機能、腎機能検査等)	WBC/RBC/Plts・ALT/ALT/ALP等	頻回に	骨髄抑制、遅延性のリンパ球減少
ロゼウス注	ピノレルピン	臨床検査	WBC/RBC/Plts等	頻回に	骨髄抑制
ワーファリン錠	ワルファリン カリウム	[ゼローダ(カベシタピン)、 ティーエスワン、ユーエフティー併用時] <sup>※1</sup> 血液凝固検査	PT-INR等	併用開始初期は週に1回 安定期は3-6週に1回	出血

※1:個人差が大きいのので注意が必要。また、併用中止後も注意が必要。

※2:ティーエスワン、ユーエフティーでは、警告への記載はないが、類薬のカベシタピンにおいて記載があるため、同程度の注意が必要であると考えられる。

※3:①アントラサイクリン系薬剤投与中または前治療歴のある②胸部の放射線を照射中③心不全症状のある④冠動脈疾患(心筋梗塞、狭心症等)又はその既往のある  
⑤高血圧症又はその既往のある患者

※4:海外添付文書より

※5:日本メジフィジックス株式会社(専任製造販売元)ウェブサイトより